新年明けまして おめでとうございます

余市町長 嶋 保

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

希望に満ちた平成28年の新春を、皆様と共に健やかに迎えることができましたことを大変喜ばしく思っております。

町民の皆様には、日頃から町政に対するご理解、ご協力をいただき心からお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、地方においては景気回復の足取りは未だ鈍く、消費税増税を間近に控える中、景気回復の動向が懸念されますが、今後の更なる経済対策に期待するところであります。

町内では、9月を過ぎても半袖で過ごせるような陽気もありましたが、水産業では、一昨年と比較すると、サケやホッケ、ナマコの漁獲量が増えている状況が見受けられると共に、農業では、果樹・野菜などの農作物も、9月までは順調な生育状況でありました。

しかしながら、10月に2度の暴風により、水産業、農業とも被害を受け、大変残念な結果となりました。

更に、環太平洋連携協定（ＴＰＰ）が大筋合意に至り、今後どの様な影響が出るかなどを注視しなければならないと考えております。

観光では、連続テレビ小説「マッサン」の放送を受け、本町における観光客の入込数は、昨年度において、集計開始以来、過去最高を記録しております。

これをきっかけとして、本町における歴史・文化・産業等のさらなる情報発信を進め、本町を訪れる方々が、来て良かった、また来たいと思える観光地づくりにより一層力を入れてまいらなければならないと考えています。

この余市町が、住み良く活気に満ちた町であり続けるためには、まちづくりの基礎となる「住み良く安心して暮らせるまちを創る」、「余市町の多様な資源・人的パワーを活かした元気なまちを創る」、「町民と行政が連携して歩むまちを創る」の三本の柱を政策の基本として、余市町に生まれ育ち、住んで良かったと実感していただけるような持続可能な地域社会づくりに向けて全力を尽くす決意でございます。

これからも、町民皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとって、幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年明けまして おめでとうございます

余市町議会議長 中井 寿夫

希望に満ちた平成28年の新春を迎え、心からお喜び申し上げます。

町民の皆様には、日ごろから議会活動に対する温かいご理解とご支援を賜り、町議会を代表し厚くお礼を申し上げます。

顧みますと昨年は、10月初旬に2週続いた低気圧と台風23号による暴風で、本町の基幹産業であります農業、漁業において大きな被害を受け、自然災害の恐ろしさを改めて痛感した年でもあり、減災社会の実現に向けた早急な対策が必要であると存じております。

さて、国においては、一億総活躍社会の実現を目指すとし、希望を生み出す強い経済、夢をつむぐ子育て支援、安心につながる社会保障を新・3本の矢として、それぞれにＧＤＰ600兆円、希望出生率1.8の達成、介護離職ゼロとする対策の検討が進められておりますが、我が国の構造的な問題である少子高齢化や日本経済におけるデフレ脱却といった諸課題が解決されることを強く望んでいるところであります。

現在、自主性・主体性を発揮し、地域の実情に沿った地域性のあるものとして地方創生を推進するために、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき各自治体において地方版総合戦略が策定されております。人口減少問題の克服、自らの地域資源を活用した多様な地域社会の形成など魅力ある地方創生を目指すには、国と地方が連携・協力し、地域のことは地域が責任をもって決める仕組みと支援措置が重要であると考えております。

一方、余市町におきましては、連続テレビ小説「マッサン」の放映が好評を博す中、昨年3月をもって終了しましたが、その後も多くの観光客が訪れるなど、本町の魅力が全国に発信され、その効果は計り知れないものと考えており、今後に大きな期待を寄せているところです。

私共議会は、昨年8月に町議会議員選挙が執行され、議員18名、意を新たに研鑽を重ね、諸課題に積極的に取り組んでおりますが、地方分権の進展で地方議会の役割は益々重要となっており、今後も町民の代表として議員一同、全力を挙げてその責務を全うしていく所存でありますので、尚一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が町民の皆様にとりまして、ご健勝で幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。